

利根川を巡る

今回は、利根川下流部を実際に船で巡ることで、利根川の自然を体感し、その歴史について学びました。また、佐原の町並みをケーススタディーとし、かつて河岸が多様な地域文化を創出するにいたった経緯を知ること、文化と交通の相関性について理解を深めました。

日 時	平成 21 年 8 月 6 日 (木)
	午前 8 時 30 分から午後 5 時 30 分
	(JR 千葉駅東口集合出発 バス移動 JR 千葉駅東口解散)
場 所	利根川下流部および千葉県立中央博物館大利根分館、佐原の町並み
日 程	8:30 JR 千葉駅東口 NTT 前 集合出発
	バス移動
10:00 - 12:00	利根川下流部 (河川巡視船に乗船し、横利根閘門・小見川大橋間を往復)
	バス移動
12:00 - 14:00	千葉県立中央博物館大利根分館
	昼食後、見学・解説
	バス移動
14:00 - 16:00	佐原の町並み散策
	徒歩 (約 3 km)
	バス移動
17:30	JR 千葉駅東口 解散

【おもな見学内容】

利根川下流部：巡視船に搭乗し、横利根閘門・利根川河口堰間を往復して、河川敷の自然や河川から見た陸地景観を見学。

千葉県立中央博物館大利根分館：常設展示の見学を通じ、利根川の自然と歴史について学習。

佐原の町並み：NPO 法人小野川と佐原の町並みを考える会の解説ボランティアによる佐原の町並み見学。河岸として発達した町場について学ぶ。

協 力 国土交通省利根川下流河川事務所、千葉県立中央博物館、NPO 法人小野川と佐原の町並みを考える会

JR 千葉駅東口 NTT 前からバスはスタート。車中では、下知識にと、利根川の東遷や流域の地誌関連のビデオを見ながらの移動です。横利根閘門に到着すると、まず、河川巡視船に乗船し、ここから小見川大橋までを往復。川風が心地よくあたります。船上からの景色は、普段、あまり見られないものです。

横利根閘門

横利根閘門は、大正3年(1914)から約7年の大工事の末、大正10年(1921)に完成した我が国最大級の規模を持つ煉瓦造複閘式閘門で、利根川の明治改修事業で唯一現存するシンボリック施設です。

横利根閘門は利根川が増水したときに、洪水が霞ヶ浦に逆流しないよう、また増水時でも船舶の航行が可能のように当時の最新技術を用い日本人技術者のみによって建設されたもので、約80年経った現在でも利用されている現役の閘門です。

完成以来大きな改築がなかったために施設の老朽化が進んでいましたが、平成6年に省力化のための自動化と門扉等の腐食が進んでいる部分について当時の設計図通りに復元改築されました。横利根川閘門の設計および施工の水準は高く、我が国における煉瓦造閘門のひとつの到達点を示す近代化遺産としての価値により平成12年5月、重要文化財に指定されました。



横利根閘門



河川巡視船



船内にて



船上から津宮方面をみる

船を降りると、大利根分館へ。ここでは利根川の自然と歴史について学びました。

県立中央博物館大利根分館

利根川の自然と歴史・千葉県の農業をテーマとする博物館。ナウマンゾウが生息していた地質時代から縄文・弥生・古墳時代、そして中世・近世までの利根川の歴史を、様々な模型や実物資料などを用いて紹介するほか、利根川流域を中心とした東下総地域の歴史、民俗、自然などに関する資料を収集・展示しています。



大利根分館



高瀬船模型

高瀬船の約 1 / 5 の大きさに復元した利根川高瀬船の模型です。セイジと呼ばれる寝起きすることができる場所があることが特色のひとつです。約 600 俵の米俵を運ぶことができました。荷物としては、米のほか酒や醤油・木材・ワラ製品や薪などがおもなものでした。



佐原河岸模型

利根川流域の佐原河岸の一部を復元(1 / 100)し、昭和初期の河岸のにぎわいを展示しています。



館内見学風景

* むかしの利根川・いまの利根川 *



利根川は、もともと江戸湾(東京湾)に注いでいましたが、近世初頭にその流れを東に移し、ついに銚子の河口から太平洋へと注ぐようになりました。これを「利根川の東遷(とうせん)」と呼びます。



明治時代になっても水運が交通の主役であるうちは、航路を確保するための低水工事を主とした治水工事が行われていましたが、明治29年(1896)に河川法が制定されると、治水事業の中心は大規模な洪水防御に対応できる高水工事へと転換します。その後もたびたび洪水にみまわれ、改修計画は何度も改訂されています。

現在の利根川は、新潟県と群馬県の県境にある大水上山(標高1,834m)に水源を發し、大小749にのぼる支流をあわせながら、関東平野を流れて千葉県銚子市で太平洋へと注いでいます。幹線流路の長さは322kmと信濃川に次いで日本で二番目に長い川です。また、流域面積は約16,840 m^2 と日本一です。流域は東京都、群馬県、千葉県、茨城県、栃木県、埼玉県にまたがり流域には約1,200万人もの人たちが生活しています。

現在の利根川は、新潟県と群馬県の県境にある大水上山(標高1,834m)に

大利根分館での見学が終わると、水郷大橋を渡って、対岸の佐原へ。このあたりは千葉県・茨城県の県境が入り組んでいます。佐原では、解説ボランティアの方にご案内いただきました。

佐原の町並み

市内をゆったりと蛇行しながら流れる小野川沿いや、香取神宮に向かう香取街道沿いの町並みには、江戸時代の名残を留める昔ながらの建物が多数残っています。



木造や蔵造りの町家のほか、土蔵・洋風建築などの伝統的建造物が数多く残り、小野川や柳などの周囲の環境と一体となって、利根川下流域の商業都市としての歴史的背景を伝えています。これらの町並みは平成8年に、文化庁から重要伝統的建造物群保存地区の指定を受けました。関東地方では初めての指定地区となります。

小野川と佐原の町並み

これらの町並みは平成8年に、文化庁から重要伝統的建造物群保存地区の指定を受けました。関東地方では初めての指定地区となります。



三菱館(旧三菱銀行)

三菱館(旧三菱銀行)大正3年(1914)。イギリスより直輸入した煉瓦を使った2階建ての洋館です。屋根は木骨銅板葺きで、正面屋根隅にドームを設けています。



中村屋商店

中村屋商店、安政2年(1855)。代々荒物・雑貨・畳を商ってきました。交差した道路に沿った変形の敷地のため、主屋の角の柱を五角形にしてあります。



中村屋乾物店

中村屋乾物店(文庫蔵)明治18年(1885)。建築店は当時最高の技術を駆使した防火溝作りで壁の厚さが尺五寸、完成に2年以上かかったという自慢の建築です。店舗は江戸時代の様子そのままに残っています。



福新呉服店(左)・小堀屋本店(右)

福新呉服店、明治26年(1893)。店の奥の土蔵は古く、明治初期の建築です。堂々とした間口を誇っている店舗で当時の建築工法のすばらしさがわかります。小堀屋本店、明治23年(1890)。創業が天明2年(1782)の蕎麦屋です。店は江戸時代の形式そのままです。



佐原の町並み見学風景

* まちのはじまり *

「さわら」の地名は、1218年に千葉介成胤が香取大神宮寺観音へ宛てた寄進状に「在佐原村名田二段」と記されているのが初見です。しかし、古代から香取神宮に関する集落、もしくは農村集落があったと推考する学説が多いようです。現在の町並みの範囲は、中世末から近世にかけて形成されたものです。

まちの組織をみると、前述の天正年間に新宿が開起し、1608年には、本宿組・下宿組・浜宿組・仁井宿組の5組が記録され、江戸時代中期には、本宿11町内、新宿14町内の記録があり、この時期にほぼ現状の町内組織が出来上がったものと思われます。

佐原村の規模は、周辺に類例を見ない大都市でした。1838年の「佐原村差出書上帳」によれば、新田を含め、家1,163軒、人口5,647人の記録が残ります。

* 近世の繁栄と物流の時代 *

1590年小田原の北条氏が豊臣秀吉によって滅ぼされると、北条氏を支持した千葉一族も滅亡し、新たな時代を迎えます。徳川家康が関八州を治めることにより、当地の支配体制も変わり、また、この時代は、産業・経済が発達し生活形態が一変する時代でもあり、経済上も佐原は新しい時代を迎えます。

徳川家康が江戸へ入城し、治水や防衛上から利根川の東遷(とうせん)が行われると、この地域は十六島(じゅうろくしま)をはじめ、低地の新田開発が進み、一大穀倉地となりました。また、江戸へ通じた利根川は、舟運が盛んとなり、各地に河岸が出現することになります。一方、庶民の生活も自給自足の生活から次第に商品経済へと移り、商業が活発化することとなりました。「伊能三郎右衛門家文書」によれば、天正年間(1573~1592)に国分氏は、新宿を開起し、六斉市を認めています。香取街道沿いには、高見世やゴザ・ムシロ等による市が定期的にかかれ、賑わいをみせました。

利根川の東遷が完成し、大型船高瀬船やひらた船が航行可能となると、佐原河岸は賑わいを見せ、繁栄を極めます。佐原周辺の広大な耕地の生産と消費は、佐原村を利根川随一の河港商業都市へと発展させたのです。近世末期の繁栄は、赤松宗旦の「利根川図志」に「佐原は下利根川附第一繁栄の地なり。村の中ほどに川有りて、新宿・本宿の間に橋を架す(大橋という)。米穀諸荷物の揚下げ、旅人の船、川口より此所まで先をあらそひ、兩岸の狭きをうらみ、誠に水陸往来の群衆、昼夜止むことなし」(1858)と記されるほどでした。扱われた物資は、米・雑穀・薪炭・酒・醤油等で、これらを江戸へ運び、帰りに呉服や日用品を仕入れ、佐原周辺に販売されました。佐原は、この地域の物資の集散地として、また東北地方の物資輸送の中継地として栄えたのです。

このような経済発展は、地域の文化や学問にも影響を与え、すばらしい人物を輩出しています。伊能忠敬は天文学や地図作製で、楫取魚彦は国学者・画家・歌人・俳人として、久保木竹窓は儒学・教育者として、清宮秀堅は漢詩・地理・歴史・儒学者として知られるところです。

かくして、見学は無事終了。たいへん有意義な1日を過ごすことができました。参加者の皆様、お疲れ様でした。そして、ご協力ありがとうございました。

参加者の声

- ・ はじめて利根川を知る機会を得て、たいへん感銘を受けました。このようなツアーに参加できましたこと厚く御礼申し上げます。
- ・ 巡視船に乗って利根川を下ることができて、このような企画を立ててくださり、ありがとうございました。欲をいえば、利根川の河口堰まで行きたかったです。
- ・ 今日は1日楽しませていただきました。夏休みの自由研究にも助かります。
- ・ 今回は夏休みのためか、子供さんの参加が多く、楽しかった。
- ・ また来年も来たい。
- ・ 内容としてはとてもおもしろかった。
- ・ 船に乗れたりして楽しかったです。
- ・ 楽しくわかりやすく解説していただき、とても有意義な時間でした。
- ・ この地域についていろいろ教えていただき、たいへん参考になりました。ありがとうございました。

